

③ 需要に応じた生産（加工用米、新規需要米）

加工用米及び新規需要米とは？

○加工用米



- 米穀を原料とする酒類（例：清酒、焼酎）
- 加工米飯（例：冷凍チャーハン）
- 米穀を原料とする調味料（例：みそ）
- 米穀粉、玄米粉その他これらに類するもの（例：団子）
- 米菓その他米穀を原料又は材料とする菓子
- 玄米茶、ビタミン強化米、甘酒、アルファ化米、乳児食等
など



○新規需要米



- 飼料用米
- 米粉用米（米以外の穀物代替となるパン・麺等の用途）
- WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）
- 青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるものに限る）
- 新市場開拓用米（例：輸出用米）



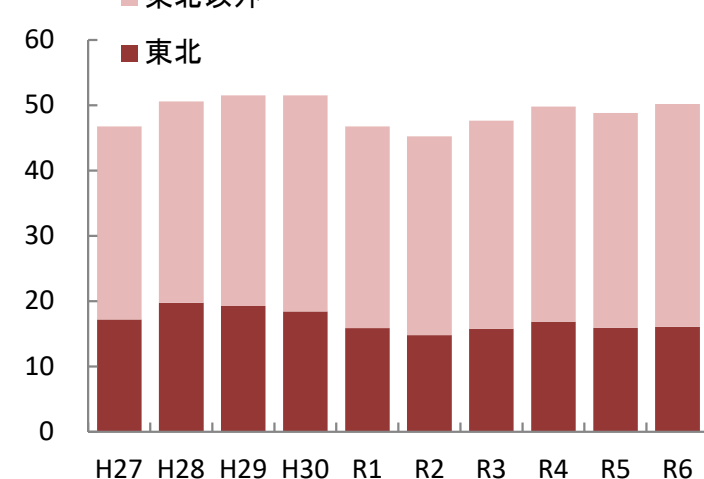
飼料用米、米粉用米を除く、国内外の米の新市場の開拓を図ると判断される用途に供される米穀。

加工用米及び新規需要米の作付状況(全国及び東北)

- 新規需要米のうち、飼料用米、WCS用稲、米粉用米及び新市場開拓用米の作付面積は、国内の主食用米需要の減少に伴う主食用以外の用途への作付転換により、増加傾向。
- 東北では、新規需要米のうち、WCS用稲及び新市場開拓用米において増加傾向。

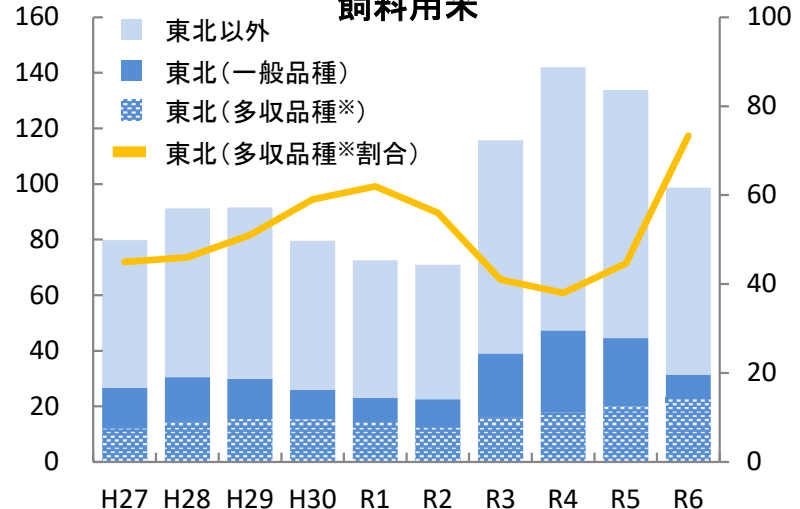
全国及び東北の作付面積

(千ha) 加工用米



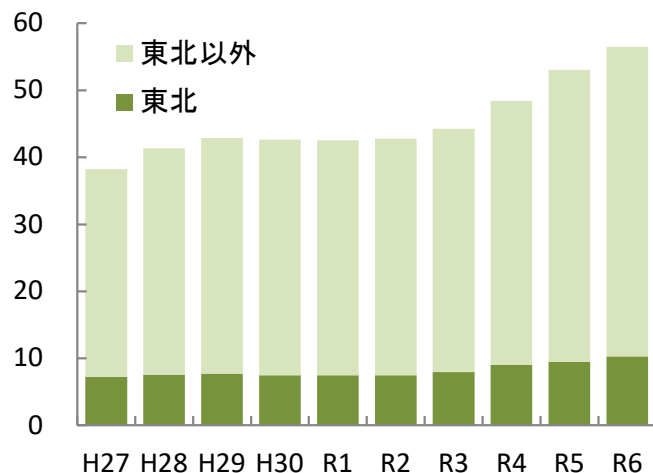
(千ha)

飼料用米



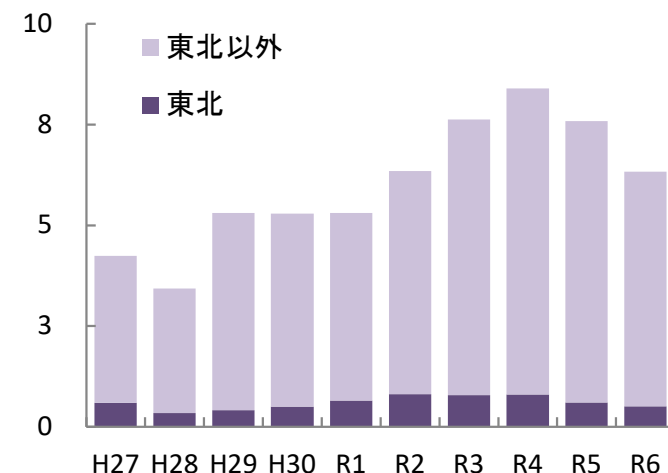
(千ha)

WCS用稲※



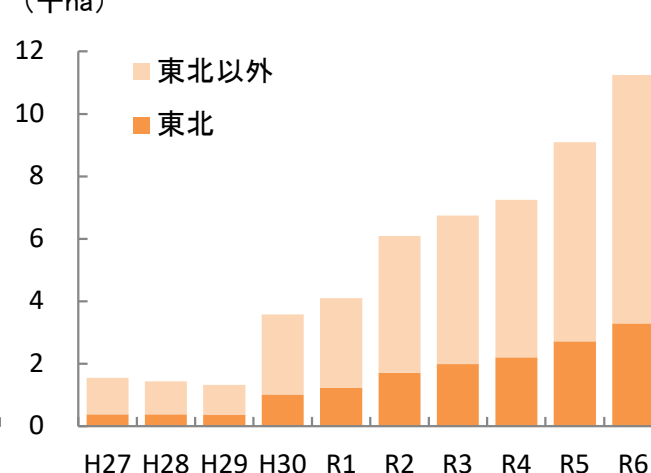
(千ha)

米粉用米



(千ha)

新市場開拓用米



※ 多収品種とは、需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領(平成26年4月1日付け25生産第3578号農林水産省生産局長通知)別紙1の第4の3に規定する多収品種のこと

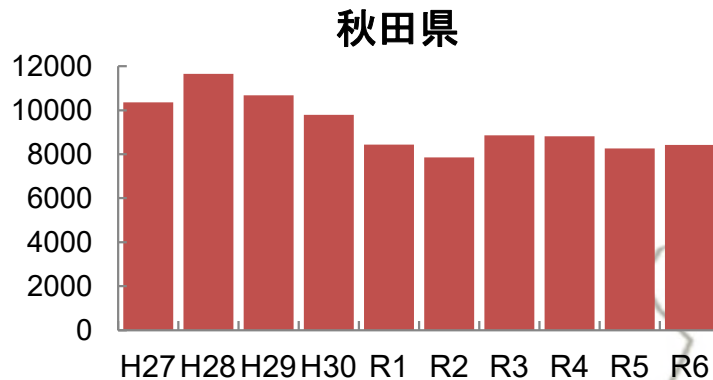
※ WCS用稲の作付け面積は、青刈り稲及びわら専用稲の面積を含む

資料: 農林水産省公表の「新規需要米の取組計画認定状況」、「加工用米の取組計画認定状況」より作成。多収品種面積については、東北農政局調べ。

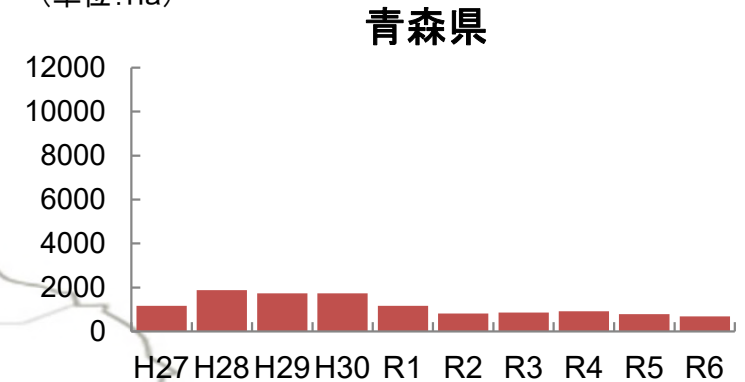
東北各県における加工用米の作付状況

○ 加工用米の取組面積は、秋田県、山形県で取組が多いが、近年はほぼ横ばい。

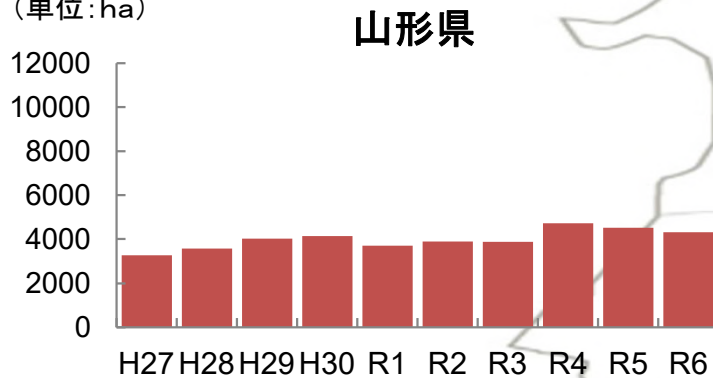
(単位:ha)



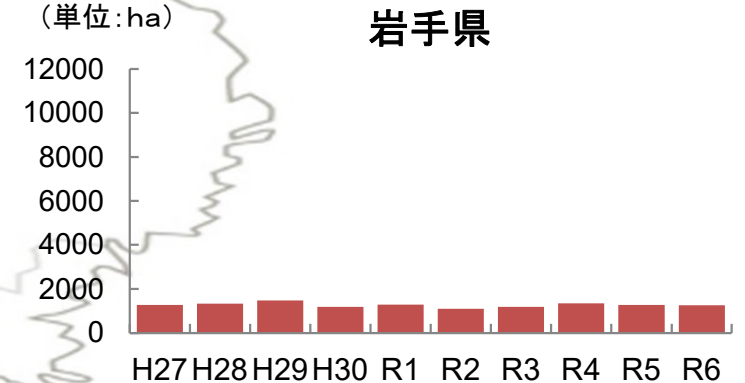
(単位:ha)



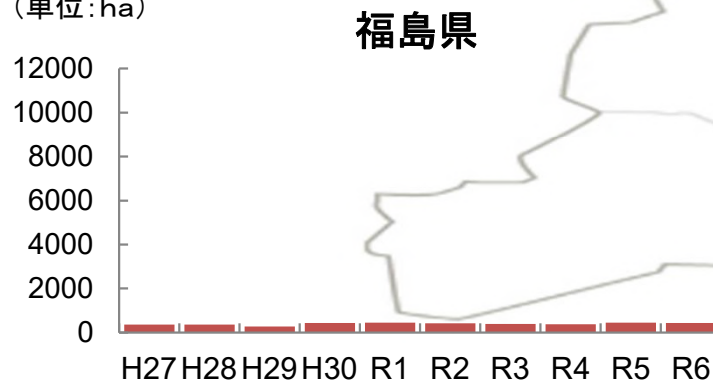
(単位:ha)



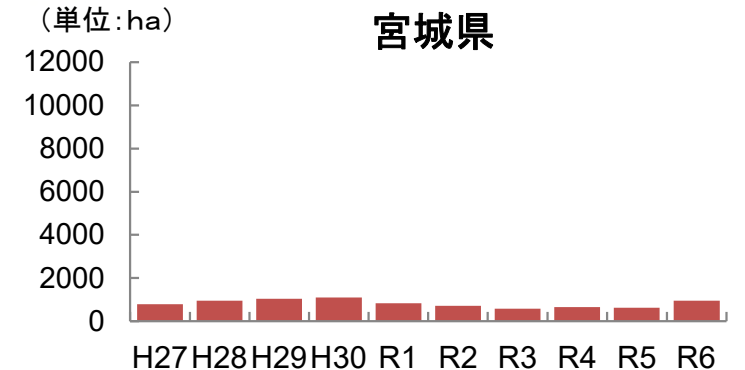
(単位:ha)



(単位:ha)



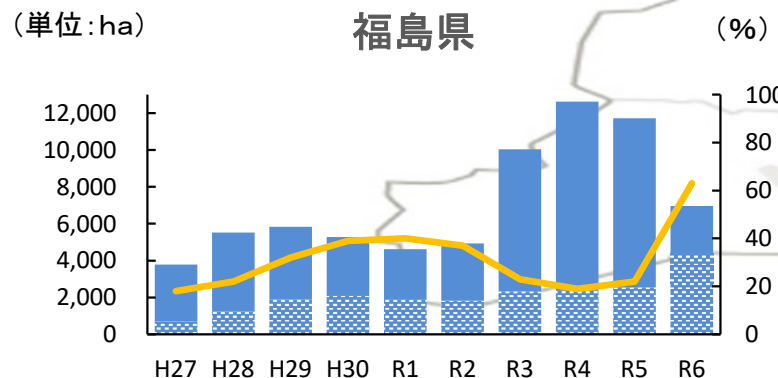
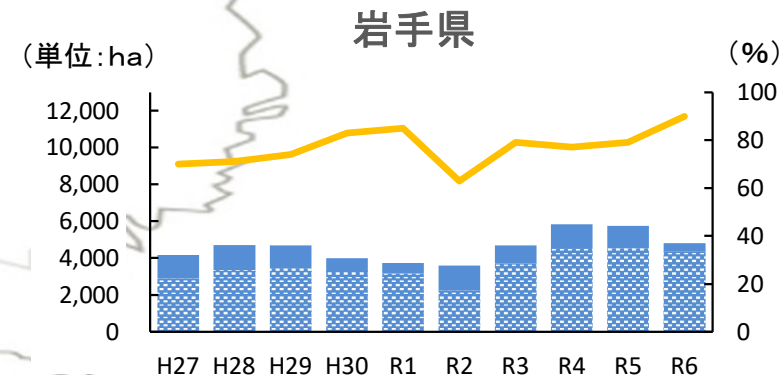
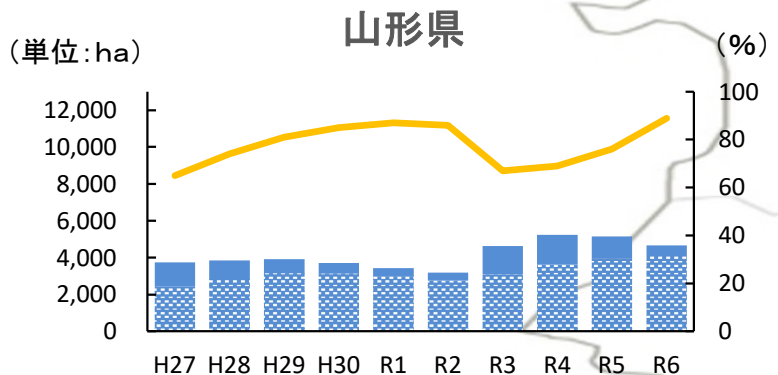
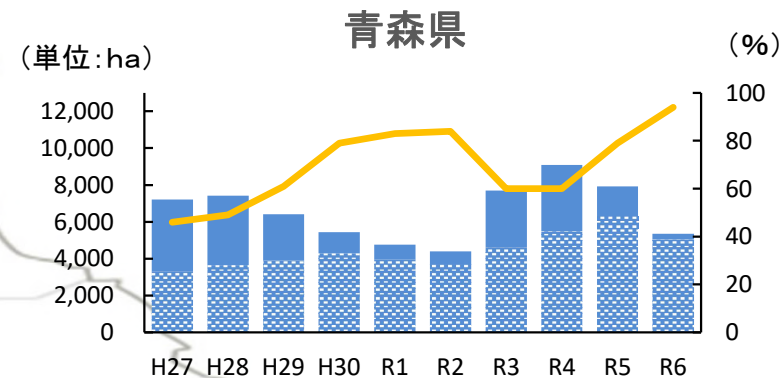
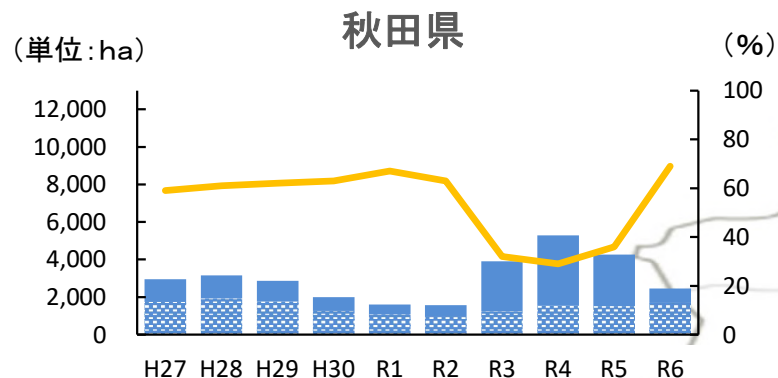
(単位:ha)



加工用米

東北各県における飼料用米の作付状況

- 飼料用米の取組面積は、東北管内では、青森県、宮城県で取組面積が大きい。
- 近年は増加傾向にあったが、令和5年産、令和6年産は全県で取組面積は減少。
- 多収品種の取組面積は、青森県、岩手県、山形県、福島県で取組面積が大きい。



飼料用米

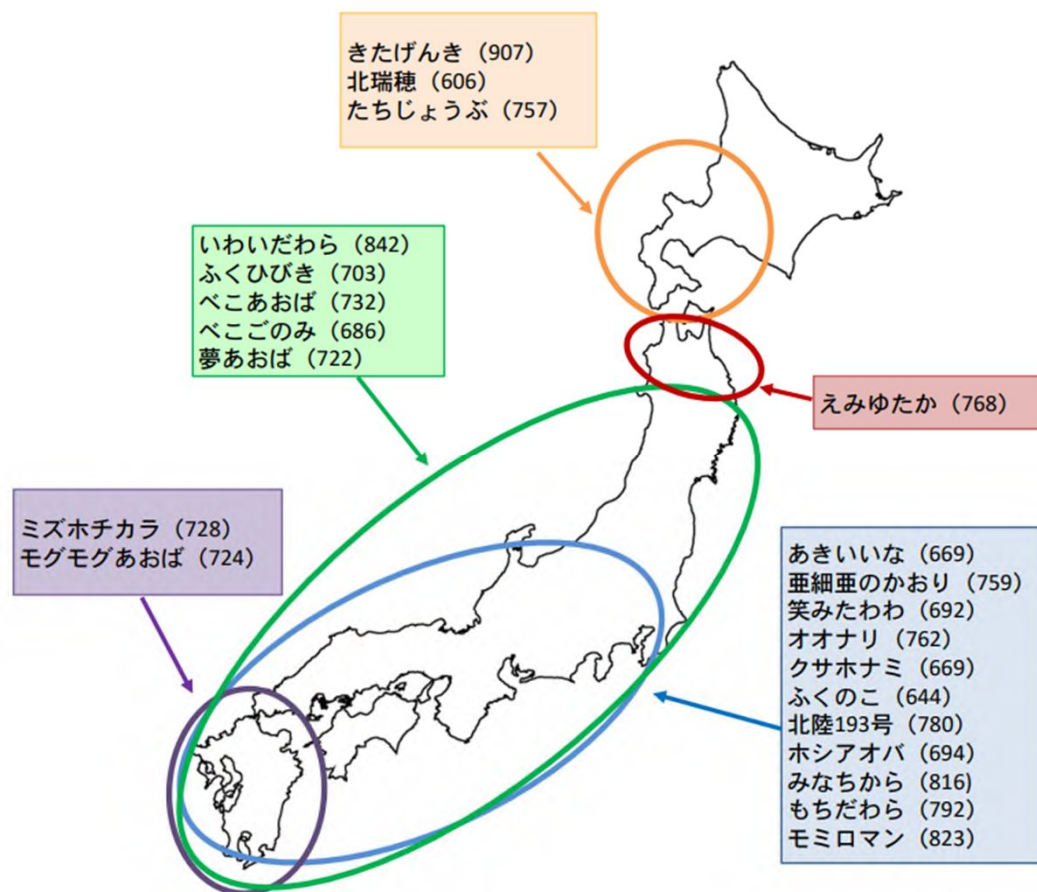
- 一般品種
- 多収品種
- 多収品種割合

※ 多収品種とは、需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領(平成26年4月1日付け25生産第3578号農林水産省生産局長通知)別紙1の第4の3に規定する多収品種のこと
資料：農林水産省公表の「新規需要米の取組計画認定状況」より作成。多収品種面積については、東北農政局調べ。

水稻の多収品種(飼料用向け)

- 多収品種については、現在、「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」において、以下の2区分が設けられている。
- ① 国の委託試験等によって、飼料等向けとして育成され、子実の収量が多いことが確認された品種。
 - ② 一般的な品種と比べて子実の収量が多く、当該都道府県内で主に主食用以外の用途向けとして生産されているもので、全国的にも主要な主食用品種ではないもののうち、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した12品種。(特認品種)

多収品種



東北の特認品種の例 (令和7年産)

青森県	ゆたかまる(811)
岩手県	つぶゆたか(672)、つぶみのり(687)、たわわっこ(739)
秋田県	秋田63号(725)、たわわっこ(717)
福島県	たちすがた(599)、アキヒカリ(816)

注：()の数値は研究機関における実証単収の一例で、単位はkg/10a

注：つぶゆたか、つぶみのりの()の数値は試験場における試験結果による参考値であり、現地での収量とは異なる

東北地域に適した多収品種(飼料用向け)

- 東北地域に適した多収品種が数多く開発されており、多収品種の導入により、低コスト生産が期待。

東北地域に適した主な多収品種の例

品種系統名	育成地	育成地における早晩生	栽培適地	粗玄米重(kg/10a)	備考
えみゆたか	青森県産業技術センター	早生	寒冷地北部、その他寒冷地の山間地及び関東以西の山間冷涼地	768	
べこごのみ	東北農業研究センター	早生の早	東北中部以南	686	
いわいだわら	東北農業研究センター	早生の晩	東北中部以南	855	
ふくひびき	東北農業研究センター	中生の中	東北中部以南	703	
べこあおば	東北農業研究センター	中生の晩	東北中部以南	732	
夢あおば	中央農業研究センター 北陸研究拠点	早生の晩	東北中南部、北陸、関東以西	722	
つぶゆたか	岩手県農業研究センター	晩生の中	盛岡以南の北上川流域標高200m以下	672	知事特認品種(岩手県)
つぶみのり	岩手県農業研究センター	中生の中	「いわてっこ」および「あきたこまち」作付け地帯	687	知事特認品種(岩手県)
秋田63号	秋田県農業試験場	晩生	秋田県中央、県南平坦部	725	知事特認品種(秋田県)
アキヒカリ	青森県産業技術センター	中生の早	東北の平坦地帯及び北陸・関東以西の中山間地帯	816	知事特認品種(福島県)

注:「粗玄米重」の数値は試験場における試験結果による参考値であり、現地での収量とは異なる

多収性品種の導入に当たっての課題

- 主食用米への混入防止（コンタミ）対策の徹底が重要。

異品種混入対策のポイント

ほ場の準備

- ほ場の団地化
- 前年と異なる品種を栽培する場合は、移植栽培にする。（特に多収品種から主食用米に変わるときには注意が必要）

耕起または代かき前

- 発生した漏生イネを鋤き込む。

代かき後から移植前

- 代かきから田植えまでの期間は7日以内とする。

移植後

- 発生する漏生イネを防除するため、移植直後に初期除草剤を散布する。前作がミズホチカラ、モミロマン等の除草剤感受性品種の場合は、トリケトン系成分を含む除草剤を利用する。

本田生育中

- 株間、条間が見える間に栽培品種以外の漏生イネを抜き取る。
- 出穂後に形質の異なる穂の株を抜き取る。

収穫

- 収穫作業を組織化する。
- 品種毎に収穫する。
- 品種の切り替え時にコンバインの清掃を行う。

乾燥・調製

- 品種毎に乾燥・調製する。
- 品種の切り替え時に乾燥機・調製用機械の清掃を行う。

機械等格納

- 翌年の混入を防止するため、コンバイン等の格納時に清掃を行い、残留籾を取り除く。

落下種子対策（漏生イネの発生防止）

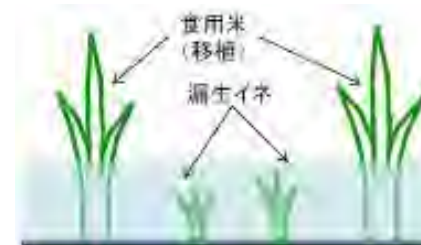
（栽培方法の選択）

- ・ 多収品種栽培後のほ場に一般品種を栽培する場合には、極力直播栽培を避け、移植栽培を実施

（除草剤の利用）

- ・ 移植栽培では移植イネよりも漏生イネのほうが小さいため、次の方法で漏生イネを防除

- ① 代かき前の非選択性除草剤散布
- ② 代かき後の初期除草剤散布、移植水稻のみを適用作物とする初中期一発除草剤の散布等
- ③ 前作がミズホチカラ、モミロマン等のトリケトン系除草剤感受性が確認されている品種の場合は、主食用米品種移植直後のトリケトン系成分（ベンゾビシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）を含む除草剤の散布



漏生イネ・・・収穫時にほ場に落下したモミが次年度に発芽し、次期作の稲に混ざって生育したもの

飼料用米生産の優良事例①：令和6年度 飼料用米多収日本一 単位収量の部

いのまた かずのり

猪俣 一徳（福島県大沼郡会津美里町）

【全国農業協同組合連合会会長賞】

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ふくひびき	1.6ha	800kg/10a	177kg/10a(623kg/10a)※

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営(本人と息子)、農繁期には4～5名を臨時雇用。
- 水稻を中心に、小麦やそば、かぼちゃも作付け。

【作付品目】

- 主食用米
コシヒカリ、天のつぶ、こがねもち、ひとめぼれ 20.7ha
- 飼料用米 ふくひびき 1.6ha
- 備蓄米 天のつぶ 5.3ha
- 新市場開拓用米 コシヒカリ 2.0ha
- 小麦 3.1ha ○ そば 3.6ha ○ かぼちゃ 0.02ha

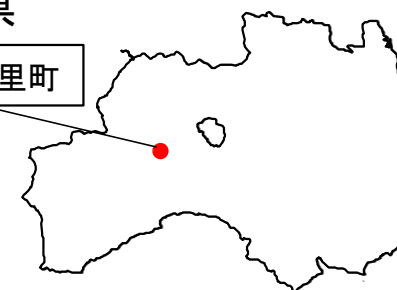
【取組のきっかけ】

- 多収が期待でき、経営の安定化にもつながるため、令和5年産からは「ふくひびき」で飼料用米生産に取り組んでいる。



福島県

会津美里町



【取組概要】

- 多収が期待できる「ふくひびき」を令和5年産から選定しており、主食用米4品種との作期分散に取り組んでいる。
- 土づくりとして、①稲わらをすき込み、②リン酸・ケイ酸・カリ混合肥料「ケイカリンバリュー」を50kg/10aで施用し、③もみ殻堆肥を1,000kg/10aで施用している。また、施肥管理は、土壌診断を行い、①高度化成肥料「ほほえむ444」を5kg/10aで施用し、②一発肥料「会津米専用ズバツと一発24」を可変施肥機能・直進アシスト付き田植え機を使用し施用している。土壌中の養分量に応じて施肥することで、コスト低減と労働力削減に繋げている。土づくりと基肥管理を十分に行っているため、追肥せずとも多収を実現している。
- 作業の省力化を図るため、病虫害防除を親族に委託し、いもち病・カメムシ対策として殺虫殺菌剤「ブラシキラップフロアブル」をドローンで散布する。また、雑草防除は、①初期処理として「ソルネット1キロ粒剤」を田植えと同時に側条で施用し、②初中期一発材「アッパレZジャンボ」を畔から投げ込む。
- 営農管理システム「Z-GIS」(地図上のほ場の形に合わせて作成したポリゴン(ほ場)とExcelで管理したほ場の情報を紐づけて管理する)を活用し、作業員にほ場場所や作業内容を伝えている。また、作業終了後の記録作成もスムーズとなった。

飼料用米生産の優良事例②：令和6年度 飼料用米多収日本一 単位収量の部

たかはし としえ

高橋 俊恵（青森県五所川原市）

【東北農政局長賞】

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ゆたかまる	12.3ha	763kg/10a	93kg/10a(670kg/10a)※

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営(本人、妻、息子、息子の妻)、繁忙期に臨時雇用あり
- 無人ヘリによる追肥等で省力化を図るとともに、額縁追肥で畦畔付近の成長しやすい株を太く育て収量増を図る。

【作付品目】

- 主食用米 はれわたり 3.2ha
- 飼料用米 ゆたかまる 12.3ha



青森県

五所川原市



【取組のきっかけ】

- 水田農業の経営発展と次世代への継承に向けて、作期分散による農業機械の効率的運用による規模拡大や経営の安定化が図られることを期待して、平成27年産から飼料用米生産に取り組む。

【取組概要】

- 令和2年産まで作付けていた「みなゆたか」よりも、多収性、耐倒伏性及び耐病性に優れた新品種「ゆたかまる」を選定。主食用米と作期の重ならない飼料用米の品種を選択することで、作期分散にも取り組んでいる。
- 施肥管理は、①基肥に一発肥料(成分30-10-9)を用いて窒素成分12kg/10aを施肥、②追肥は、無人ヘリを用いて2回実施しており、1回目は7月中旬に高窒素成分肥料(成分30-0-2)を用いて窒素成分1kg/10aを散布、2回目は7月中旬に倒伏に注意しながらNK525を用いて窒素成分1kg/10aを稲の生育状況に応じて、ピンポイントに調整しながら散布、③畦畔付近4列の日光及び風通しが良い株に手散布で額縁追肥を行い、太い株に育て多収を実現している。
- 雑草防除は①初期にシンウチEW剤を施用し、②その後、流星ジャンボを基本的には畦畔から投げ込み、圃場が大きいところは田に入って投げ込む。
- 米の集荷業も営んでおり、主食用米だけでなく、飼料用米及び稲わらも収集している。地域の農家の相談相手となることも多く、栽培管理についても惜しみなく情報提供することで、地域の飼料用米生産農家の技術向上にも貢献している。

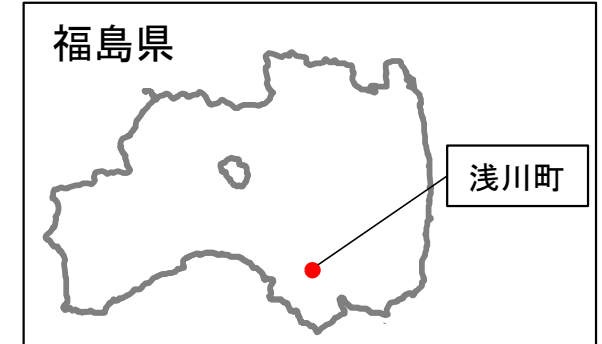
飼料用米生産の優良事例③：令和6年度 飼料用米多収日本一 地域の平均単収からの増収の部

やぎぬま げんいち
八木沼 源一（福島県石川郡浅川町）

【東北農政局長賞】

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ふくひびき	1.6ha	706kg/10a	162kg/10a(544kg/10a)※

※作柄調整後の地域の平均単収



【経営概況】

- 家族経営(本人と妻)、繁忙期には息子と娘も手伝う
- 水稻を中心に、ニラ等の野菜も作付け。周辺農業者の主食用米の収穫・乾燥作業を引き受けている。

【作付品目】

- 主食用米 5.2ha
コシヒカリ(特別栽培米)、ひとめぼれ、こがねもち
- 飼料用米 ふくひびき 1.6ha
- ニラ(施設栽培) 0.1ha

【取組のきっかけ】

稲作作業の省力化を図りつつ増収が期待でき、農家所得の向上にも繋がると考え、平成28年から飼料用米の生産に取り組んでいる。

【取組概要】

- 多収が期待できる「ふくひびき」を令和元年産から選定。主食用米3品種と作期が重ならないことから、作期分散・適期収穫に取り組んでいる。また、平成30年まで作付けていた「天のつぶ」よりも耐病性・耐倒伏性に優れていたことから、栽培管理がしやすくなった。
- 施肥管理は、基肥として元肥一発肥料「超高窒素硫黄コート一発」を40kg/10aで田植え同時側条施肥で施用する。もともと地力が高いことや、飼料用米を日当たりの良いほ場に作付けていることから、追肥をせずとも多収を実現している。
- 雑草防除は、①田植えの1週間前に水を張った状態で初期除草剤「草笛フロアブル」を振り、②田植えの1週間後に中期剤「ウルティモフロアブル」を振る。
- 省力化を図るため、①病害虫防除は、いもち病・害虫防除として箱処理剤「ブーンパディート箱粒剤」を50g/箱で施用し、②出荷時にはフレコンを用いることで、包装代のコスト削減と労働力の削減を図る。

東北各県におけるWCS用稲の作付状況

- 東北管内では、岩手県、宮城県で取組面積が大きい。
- W C S 用稲の取組面積は、近年は多くの県でほぼ横ばいだが、岩手県、宮城県では増加傾向。

